

## CSR年表

1992年	●「もうひとつの家庭の食卓」をコンセプトに、居食屋「和民」出店
1995年	●「お好み焼きHOUSE」KEI太 容器回収開始
1996年	●「株主様アンケート」開始 ●日本証券業協会に株式を店頭登録 ●社会貢献カード「ワタミふれあいカード」の発行開始
1997年	●「ビデオレター」開始 ●「ボランティア研修」開始 ●「業務改革会議」開始 ●社員独立フランチャイズ1号店を出店 ●「日本経済団体連合会1%クラブ」加入
1998年	●「株式会社ビー・エム・エス(現 ワタミエコフォーカス)」設立 ●減農薬減化学肥料の契約栽培を開始 ●東京証券取引所市場第二部に株式を上場 ●「農業研修」開始 ●ISO14001環境マネジメントシステム認証取得に向けて活動開始
1999年	●日本の外食産業として初めて、ISO14001環境マネジメントシステム認証取得 ●「ワタミ環境宣言」発表 ●「わたみ北海道自然学校」開始 ●「経営説明会」開始 ●「手づくり料理コンクール」開始
2000年	●「ふれあい報告書2001 第1版(環境・社会活動報告書)」発行 ●「安全安心食卓研究所」設立 ●東京証券取引所市場第一部に株式を上場
2001年	●NPO法人「スクール・エイド・ジャパン」支援開始 ●「あんしよく」1号発行 ●有機農業の振興会(JOHF)との交流開始 ●社内ベンチャー第1号「グリーンインダストリー株式会社」設立
2002年	●「ワタミ手づくり厨房」が埼玉県越谷市にて稼働開始 ●JRM(現 ワタミエコフォーカス)リサイクルセンター第1設立 ●東京23区内、容器包装系廃棄物のリサイクルスタート ●「施工者ミーティング」開始 ●「創業記念祭」開始 ●品質マネジメントシステムISO9001を取得 ●「理念集」発刊 ●「ワタミファーム」設立
2003年	●第1回日本環境経営大賞「環境経営優秀賞」受賞 ●生ゴミ破砕乾燥機の店舗テスト導入開始 ●JRM(現 ワタミエコフォーカス)リサイクルセンター第2設立 ●第12回「日食・環境資源協力賞」受賞 ●「イオンバリア」と「ガラスの仕切り」を併用した分煙化を開始 ●「ヘルプライン」開設 ●「ワタミファームツアー」開始 ●「環境活動申入れ書」開始 ●夏至の日に国内外食店舗、および本社の看板を消灯する独自の環境キャンペーンを開始
2004年	●「エネルギーマネジメントシステム」導入 ●「ゼロエミッション」の仕組みが完成
2005年	●第1回エコプロダクツ大賞「優秀賞」をワタミエコロジー(現 ワタミエコフォーカス)が受賞 ●国内グループ全社にて「クールビズ」対応実施 ●本社にて「ウォームビズ」対応実施 ●日経リサーチ環境経営度調査<日経産業新聞>—小売・外食部門10位、外食部門1位にランクイン
2006年	●ふれあい報告書2006 第6版をCSR報告書として初の発行
2007年	●国内の外食店舗で割箸を廃止 ●「ワタミの森づくり」を開始 ●介護施設(1ホーム)にてISO14001環境マネジメントシステム認証取得 ●「ワタミ手づくり厨房」を香港、觀塘(クントン)に開設 ●有機畜産物(鶏卵、牛乳)、有機加工食品(チーズ、バター、アイスクリーム)の有機JAS認証を取得
2008年	●ふれあい報告書2007が第11回環境コミュニケーション大賞「環境報告 優秀賞(地球・人間環境フォーラム理事長賞)」受賞

※○印の色は関連するステークホルダーを示しています。  
●お客さま ●株主様 ●お取引業者様 ●従業員 ●地域・社会 ●環境 ●すべてのステークホルダー

## 2007年度トピックス

### 国内初となるチーズなどの有機JAS認証を取得

ワタミファーム瀬棚農場(北海道)では、有機畜産・有機畜産加工食品で有機JAS認証を取得しました。※酪農および、国内初となる鶏卵、チーズ・バター・アイスクリームにて認証を取得。



### 外食店舗で割箸の使用を廃止

以前より環境負荷が比較的小さい竹の割箸を使用しリサイクルすることを推進してきましたが、さらに廃棄物の発生そのものを抑制するため割箸の使用を廃止しました。



### ふれあい報告書(CSR報告書)環境コミュニケーション大賞受賞

「ふれあい報告書2007」が、環境省および財団法人地球・人間環境フォーラムが主催する第11回環境コミュニケーション大賞にて優秀賞を受賞しました。



### 「夢追う子どもたちの家」開園

ワタミグループが支援しているNPO法人スクール・エイド・ジャパンが、孤児院「夢追う子どもたちの家」をカンボジア・ポーンサット州に開園しました。



## CSR指標

ワタミグループでは、CSRへの取り組み状況を定量的・継続的に把握するためにCSR指標を算出しました。財務面における指標だけでなく、各ステークホルダーに対して目標値を設定しています。主な指標を各対象(範囲)ごとにわけて掲載します。

### ■CSR指標

対象	範囲	項目	2007年度目標・方針 注11)	2007年度結果	評価	2008年度目標・方針 注11)
連結	グループ1 注1)	売上(連結)注2)	106,800百万円	104,231百万円	×	111,000百万円
		経常損益(連結)注2)	4,890百万円	5,165百万円	○	6,010百万円
		R O C	25%(2010年度目標)	12.09%	—	25%(2010年度目標)
	外食注3)	店舗数(※)	642店舗	618店舗	×	647店舗
	介護	ホーム数 2007年2月末	31ホーム	32ホーム	○	39ホーム
農業注3)	農場面積(※)	現状維持(488.5ha)	476ha	×	現状維持	

お客さま	外食注3)	客数	安定的な拡大(38,515千人)	36,509千人	×	安定的な拡大	
			WFS	週間80%以上	70.3%	×	週間80%以上
			WDFS	週間80%以上	70.1%	×	週間80%以上
			T.G.I.F.J	79.3%	×	週間80%以上	
			和民香港	75.0%	×		
	和民深圳	64.9%	×				
	和民台湾	64.2%	×				
	介護	週間100%	85.2%	×	週間100%		
	環境	月間60%以上	48.6%	×	月間60%以上		
	外食注4)	分煙対応店舗(※)	新規店舗導入	新規店舗9店	○	新規店舗導入	
グループ注5)	有機・特裁納入比率	37.0%以上	33.2%	×	36.3%以上		
	有機加工物の使用	714t	763t	○	760t		
株主様	ワタミ(株)	追加物の削減	1,000kg	678kg	×	250kg	
		配当	配当性向20%以上(10円)	21.2%(20円)	○	20%以上(20円)	
		株主数(※)	100,000人(達成年度の目標なし)	65,907人	—	100,000人(達成年度の目標なし)	
		発行済株式総数(※)	安定配当の維持 敏感な情報開示	41,668,280株 30.7%	—	安定配当の維持 敏感な情報開示	
お取引業者様	ワタミ(株)	環境への取り組み説明	新規お取引業者様に対する説明実施	新規お取引先(7社)に説明を実施	○	新規お取引業者様に対する説明実施	
	農業	有機農業生産者との交流を開催	年1回交流会(懇親会)を開催	交流会を支援(懇親会を開催)130名が参加	○	年1回交流会(懇親会)を開催	
従業員	グループ	社員数(※)2007年4月1日時点	新卒で460人の採用	364人	×	新卒で440人の採用	
		パート・アルバイト数(※)注6)	安全な労働環境の構築	10,587人	—	安全な労働環境の構築	
		女性社員比率注7)	男女差別のない環境の維持	31.5%	—	男女差別のない環境の維持	
		グループ障がい者雇用比率(※)注7)	1.8%以上	1.8%	○	1.8%以上	
		理念研修参加率	100%の維持	100%	○	100%の維持	
地域・社会	グループ	ボランティア参加人数(率)注8)	全社員ボランティア参加	1,685人(74.7%)	×	全社員ボランティア参加	
環境	外食注4)	1店舗あたりCO <sub>2</sub> 排出量(※)注9)	前年対比100%未満(116t-CO <sub>2</sub> )	112t-CO <sub>2</sub>	○	前年対比100%未満	
		1店舗あたり水道使用量	前年対比100%未満(4.1千m <sup>3</sup> )	4.2千m <sup>3</sup>	×		
		1店舗あたり廃棄物排出量	前年対比100%未満(16.1t)	20.3t	×	前年対比1%削減	
		1店舗あたり電気使用量	前年対比1%削減(25.0万kWh)	23.9万kWh	○		
		全廃棄物リサイクル率(※)注10)	35%の達成	33.9%	×		35%の達成
食品廃棄物リサイクル率(※)注10)	28%の達成	24.4%	×	28%の達成			

■本指標の対象期間は、2007年度(2007年4月1日～2008年3月31日)の活動を中心に、一部最新(2008年度)の情報をご紹介します。※ワタミの介護(株)については、2月決算のため、2007年度(2007年3月1日～2008年2月28日)の情報としています。※和民(中国)有限公司、和民餐飲(深圳)有限公司、台湾和民餐飲股份有限公司の3社については、12月決算のため、2007年度(2007年1月1日～12月31日)の情報としています。■表中の(※)印は、2008年3月末時点の値

注1) 対象は、ワタミ(株)および連結子会社15社

注2) 「グループ」の売上・経常損益は、連結決算、売上は消費税を含まない

注3) 対象「外食」は、WFS、WDFS、T.G.I.F.J、和民中国、台湾和民、WATAMI USA GUAMの7社合算。「農業」は、(株)ワタミファーム、(有)ワタミファーム、(有)当麻グリーンライフの3社合算

注4) 対象は、WFS、WDFS、T.G.I.F.Jの3社

注5) 対象は、国内企業11社

注6) 対象は、ワタミ(株)および連結子会社15社、社員数は就業人員、パート・アルバイト数は、対象期間の平均雇用人員(1日1人8時間換算)

注7) 対象は、グループはワタミ(株)、WFS、WDFS、ワタミの介護の4社

注8) 対象は、ワタミ(株)、WFS、WDFS、T.G.I.F.J、ワタミの介護、(株)ワタミファーム、(有)ワタミファーム、ワタミエコフォーカス、WTMDの9社

注9) 水道・ガス・電気使用量をCO<sub>2</sub>換算(対象は、国内外食3社)

注10) 全廃棄物リサイクル率は、店舗およびワタミ手づくり厨房で発生する全廃棄物に対するリサイクル比率。

食品廃棄物リサイクル率は、店舗店舗およびワタミ手づくり厨房で発生する生ゴミ・廃油に対するリサイクル比率(対象は国内外食3社)

注11) 目標・方針は2008年6月現在のものです。(■昨年度(2006年度)のCSR指標は、ホームページのふれあい報告書をご覧ください。)

GRI対照表 (1/2)

項目		評価	該当ページ	
1: ビジョンと戦略	1.1 組織にとって持続可能性の適合性とその戦略に関する組織の最高意思決定者(CEO、会長またはそれに相当する上級幹部)の声明	○	6,17,29,33,37,43,49	
	1.2 主要な影響、リスクおよび機会の説明	○	5,6,13,64	
2: 組織のプロフィール	2.1 組織の名称	○	4,5	
	2.2 主要な、ブランド、製品および/またはサービス。	○	4,5	
	2.3 主要部署、事業会社、子会社および共同事業などの、組織の経営構造	○	4,5,10,11	
	2.4 組織の本社の所在地	○	4,5	
	2.5 組織が事業展開している国の数および大規模な事業展開を行っているあるいは報告書中に掲載されているサステナビリティの課題に特に関連のある国名	○	4,5	
	2.6 所有形態の性質および法的形式	○	4,5	
	2.7 参入市場(地理的内訳、参入セクター、顧客/受益者の種類を含む)	○	4,5,9	
	2.8 報告組織の規模	○	4,5	
	2.9 規模、構造または所有形態に関して報告期間中に生じた大幅な変更	○	4	
	2.10 報告期間中の受賞歴	○	60	
3: 報告要素	報告書のプロフィール	3.1 提供する情報の報告期間(会計年度/暦年など)	○	2
		3.2 前回の報告書発行日(該当する場合)	○	2
		3.3 報告サイクル(年次、半年ごとなど)	○	2
		3.4 報告書またはその内容に関する質問の窓口	○	2
		3.5 報告書の内容を確定するためのプロセス	△	2,8
	報告書のスコープおよびバウンダリー	3.6 報告書のバウンダリー(国、部署、子会社、リース施設、共同事業、サプライヤーなど)	○	2
		3.7 報告書のスコープまたはバウンダリーに関する具体的な制限事項	○	2,3
		3.8 共同事業、子会社、リース施設、アウトソーシングしている業務および時系列での、および/または報告組織間の比較可能性に大きな影響を与える可能性があるその他の事業体に関する報告の理由	△	2,3
		3.9 報告書内の指標およびその他の情報を編集するために適用された推計の基となる前提条件および技法を含む、データ測定技法および計算の基盤	○	16,29,33,37,43,49,52,58
		3.10 以前の報告書で掲載済みである情報を再度記載することの効果の説明、およびそのような再記述を行う理由(合併/買収、基本となる年/期間、事業の性質、測定方法の変更など)	-	-
3.11 報告書に適用されているスコープ、バウンダリーまたは測定方法における前回の報告期間からの大幅な変更	-	-		
GRI内容索引	3.12 報告書内の標準開示の所在場所を示す表	○	62,63	
保証	3.13 報告書の外部保証添付に関する方針および現在の実務慣行。サステナビリティ報告書に添付された保証報告書内に記載がない場合は、外部保証の範囲および基盤を説明する。また、報告組織と保証の提供者との関係を説明する	-	-	
4: ガバナンス、コミットメント、および参画	ガバナンス	4.1 戦略の設定または全組織的監督など、特別な業務を担当する最高統治機関の下にある委員会を含む統治構造(ガバナンスの構造)	○	10,11
		4.2 最高統治機関の長が執行役員を兼ねているかどうかを示す(兼ねている場合は、組織の経営におけるその役割と、このような人事になっている理由も示す)。	×	-
		4.3 単一の理事会構造を有する組織の場合は、最高統治機関における社外メンバーおよび/または非執行メンバーの人数を明記	○	10,11
		4.4 株主および従業員が最高統治機関に対して提案または指示を提供するためのメカニズム	○	30,32
		4.5 最高統治機関メンバー、上級管理職および執行役についての報酬(退任の取り決めを含む)と組織のパフォーマンス(社会的および環境的パフォーマンスを含む)との関係。	×	-
		4.6 最高統治機関が利害相反問題の回避を確保するために実施されているプロセス	○	7-12
		4.7 経済的、環境的、社会的テーマに関する組織の戦略を導くための、最高統治機関のメンバーの適正および専門性を決定するためのプロセス	△	10,11
		4.8 経済的、環境的、社会的パフォーマンス、さらにその実践状況に関して、組織内で開発したミッション(使命)およびバリュー(価値)についての声明、行動規範および原則 企業理念とビジョン	○	6-9,20,25,49,50,65,66
		4.9 組織が経済的、環境的、社会的パフォーマンスを特定し、マネジメントしていることを最高統治機関が監督するためのプロセス。関連のあるリスクと機会を特定かつマネジメントしていること、さらに国際的に合意された基準、行動規範および原則への支持または遵守を含む	△	10,11,49
		4.10 最高統治機関のパフォーマンスを、特に経済的、環境的、社会的パフォーマンスという観点で評価するためのプロセス	○	10,11
	外部イニシアティブへのコミットメント	4.11 組織が予防的アプローチまたは原則に取り組んでいるかどうか、およびその方法はどのようなものかについての説明	○	10-13
		4.12 外部で開発された、経済的、環境的、社会的意章、原則あるいは組織が同意または受諾するその他のイニシアティブ	×	-
		4.13 (企業団体などの)団体および/または国内外の提言機関における会員資格	×	-
		4.14 組織に参画したステークホルダー・グループのリスト	△	2,8
		4.15 参画してもらうステークホルダーの特定および選定の基準	△	8
		4.16 種類ごとの、およびステークホルダー・グループごとの参画の頻度など、ステークホルダー参画へのアプローチ	○	20-28,30-32,34-36,38-42,44-47,50-58
		4.17 ステークホルダー参画を通じて浮かび上がった主要な課題および懸念事項と、それらに対して組織がどのように対応したか	○	10,11
5: 経済パフォーマンス指標	マネジメントアプローチに関する開示		○	10,11
	経済的パフォーマンス	EC1 収益、事業コスト、従業員の給与、寄付およびその他のコミュニティへの投資、内部留保、および資本提供者や政府に対する支払いなど、創出したおよび分配した経済的価値	○	4,5,30,44,47
		EC2 気候変動による、組織の活動に対する財務上の影響およびその他のリスクと機会	△	62
		EC3 確定給付(福利厚生)制度の組織負担の範囲	×	-
		EC4 政府から受けた相当の財務的支援	×	-
	市場での存在感	EC5 主要事業拠点について、現地の最低賃金と比較した標準的新入社員賃金の比率の幅	×	-
		EC6 主要事業拠点での地元のサプライヤー(供給者)についての方針、業務慣行および支出の割合	△	34-36
		EC7 現地採用の手順、主要事業拠点で現地のコミュニティから上級管理職となった従業員の割合	△	22
		EC8 商業活動、現物支給、または無料奉仕を通じて主に公共の利益のために提供されるインフラ投資およびサービスの展開と影響	○	47,48
EC9 影響の程度など、著しい間接的な経済的影響の把握と記述		×	-	
6: 環境パフォーマンス指標	マネジメントアプローチに関する開示		○	49,50
	原材料	EN1 使用原材料の重量または量	○	52,58,64
		EN2 リサイクル由来の使用原材料の割合	△	36,52
	エネルギー	EN3 1次エネルギー源ごとの直接的エネルギー消費量	○	51,52,66
		EN4 1次エネルギー源ごとの間接的エネルギー消費量	×	-
		EN5 省エネルギーおよび効率改善によって節約されたエネルギー量	○	53,58
		EN6 エネルギー効率の高いあるいは再生可能エネルギーに基づく製品およびサービスを提供するための率先取組および、これらの率先取組の成果としてのエネルギー必要量の削減量	△	53
		EN7 間接的エネルギー消費量削減のための率先取組と達成された削減量	×	-
	水	EN8 水源からの総取水量	○	52,66
		EN9 取水により著しい影響を受ける水源	-	-
EN10 水のリサイクルおよび再利用が総使用水量に占める割合		-	-	

○…記載している △…部分的に記載している ×…記載していない -…該当事項なし

GRI対照表 (2/2)

項目		評価	該当ページ		
6: 環境パフォーマンス指標	生物多様性	EN11 保護地域内、あるいはそれに隣接した場所および保護地域外で生物多様性の価値が高い地域に所有、賃借、あるいは管理している土地の所在地および面積	-	-	
		EN12 保護地域および保護地域外で生物多様性の価値が高い地域での生物多様性に対する活動、製品およびサービスの著しい影響の説明	-	-	
		EN13 保護または復元されている生息地	-	-	
		EN14 生物多様性への影響をマネジメントするための戦略、現在の措置および今後の計画	-	-	
		EN15 事業によって影響を受ける地区内の生息地域に生息するIUCN(国際自然保護連合)のレッドリスト種(絶滅危惧種)および国の絶滅危惧種リストの数。絶滅危険性のレベルごとに分類する	-	-	
		EN16 重量で表記する、直接および間接的な温室効果ガスの総排出量	○	51,52,66	
		EN17 重量で表記する、その他の関連する間接的な温室効果ガスの総排出量	×	-	
		EN18 温室効果ガス削減のための取り組みと削減実績	○	50-58	
		EN19 重量で表記する、オゾン層破壊物質の排出量	-	-	
		EN20 種類別および重量で表記するNOx、SOxおよびその他の著しい影響を及ぼす排気物質	×	-	
	排出物、排水および廃棄物	EN21 水質および放出先ごとの総排水量	×	-	
		EN22 種類および廃棄方法ごとの廃棄物の総重量	○	51,52	
		EN23 著しい影響を及ぼす漏出の総件数および漏出量	-	-	
		EN24 パーゼル条約付属文書 I, II, III およびIVの下で有害とされる廃棄物の輸送、輸入、輸出あるいは処理の重量および国際輸送された廃棄物の割合	-	-	
		EN25 報告組織の排水および流出液により著しい影響を受ける水域の場所およびそれに関連する生息地の規模、保護状況および生物多様性の価値	-	-	
		製品およびサービス	EN26 製品およびサービスの環境影響を緩和する率先取組と、影響削減の程度	○	52,55,59
		EN27 カテゴリー別の、再生利用される販売製品およびその梱包材の割合	△	52-55	
		遵守	EN28 環境規制への違反に対する相当な罰金の金額および罰金以外の制裁措置の件数	-	-
		輸送	EN29 組織の業務に使用される製品、その他物品および原材料の輸送および従業員の移動からもたらされる著しい環境影響	○	55
		総合	EN30 種類別の環境保護目的の総支出および投資	○	58
	マネジメントアプローチに関する開示		○	14,15,37,41,43	
	雇用	LA1 雇用の種類、雇用契約および地域別の総労働力	○	5,22,41,61	
		LA2 従業員の総離職数および離職率の年齢、性別および地域による内訳	×	-	
		LA3 主要な業務ごとの、派遣社員またはアルバイト従業員には提供されないが正社員には提供される福利	○	14,15,42	
		LA4 団体交渉協定の対象となっている従業員の割合	×	-	
	労使関係	LA5 労働協約に定められているかどうかも含め、著しい業務変更に関する最低通知期間	×	-	
		LA6 労働安全衛生プログラムについての監視および助言を行う公式の労使合同安全衛生委員会の対象となる総従業員の割合	○	37,42	
	労働安全衛生(公正な労働条件)	LA7 地域別の、傷害、業務上疾病、損失日数、欠勤の割合および業務上の総死亡者数 社会性目標と実績	×	-	
		LA8 深刻な疾病に関して、労働者、その家族またはコミュニティのメンバーを支援するために設けられている、教育、研修、カウンセリング、予防および危機管理プログラム	○	42	
		LA9 労働組合との正式合意に盛り込まれている安全衛生のテーマ	×	-	
研修および教育		LA10 従業員のカテゴリ別の、従業員あたり年間平均研修時間	△	38,40	
LA11 従業員の継続的な雇用適性を支え、キャリアの終了計画を支援する技能管理および生涯学習のためのプログラム		△	40		
LA12 定期的にパフォーマンスおよびキャリア開発のレビューを受けている従業員の割合	×	-			
多様性と機会均等	LA13 性別、年齢、マイノリティーグループおよびその他の多様性の指標に従った、統治体(経営管理職)の構成およびカテゴリ別の従業員の内訳	×	-		
	LA14 従業員のカテゴリ別の、基本給与の男女比	×	-		
マネジメントアプローチに関する開示		○	41		
8: 社会パフォーマンス指標(人権)	投資および調達	HR1 人権条項を含む、あるいは人権についての適正審査を受けた重大な投資協定の割合	×	-	
	HR2 人権に関する適正審査を受けた主なサプライヤーおよび請負業者の割合	×	-		
	HR3 研修を受けた従業員数を含め、業務に関連する人権の側面に関わる方針および手順に関する従業員研修の総時間	△	41		
	無差別	HR4 差別事例の総件数と取られた措置	×	-	
	結社の自由	HR5 結社の自由および団体交渉の権利行使が著しいリスクに曝されるかもしれないと判断された業務と、それらの権利を支援するための措置	×	-	
	児童労働	HR6 児童労働の事例に関して著しいリスクがあると判断された業務と、児童労働の防止に貢献するための対策	×	-	
	強制労働	HR7 強制労働の事例に関して著しいリスクがあると判断された業務と、強制労働の防止に貢献するための対策	×	-	
	保安慣行	HR8 業務に関連する人権の側面に関する組織の方針もしくは手順の研修を受けた保安要員の割合	△	41	
	先住民の権利	HR9 先住民の権利に関係する違反事例の総件数と、取られた措置	×	-	
マネジメントアプローチに関する開示		○	12,13		
9: 社会パフォーマンス指標(社会)	コミュニティ	SO1 参入、事業展開および撤退を含む、コミュニティに対する事業の影響を評価し、管理するためのプログラムと実務慣行の性質、適用範囲および有効性	×	-	
	不正行為	SO2 不正行為に関するリスクの分析を行った事業単位の割合と総数	○	12,13	
		SO3 組織の不正行為対策の方針および手順に関する研修を受けた従業員の割合	○	12	
		SO4 不正行為事例に対応して取られた措置	△	12	
		SO5 公共政策の位置づけおよび公共政策開発への参加およびロビー活動	×	-	
	公共政策	SO6 政党、政治家および関係機関への国別の献金および現物での寄付の総額	×	-	
	非競争的な行動	SO7 非競争的な行動、反トラストおよび独占的慣行に関する法的措置の事例の総件数とその結果	×	-	
	遵守	SO8 法規制の違反に対する重要な罰金の金額および罰金以外の制裁措置の件数	○	12	
マネジメントアプローチに関する開示		○	12,14,16,17		
10: 社会パフォーマンス指標(製品責任)	顧客の安全衛生	PR1 製品およびサービスのライフサイクルを通じた安全衛生の影響について、改善のために評価が行われているライフサイクルのステージ、ならびにそのような手順の対象となる主要な製品およびサービスのカテゴリの割合	○	18-28	
		PR2 製品およびサービスの安全衛生の影響に関する規制および自主規範に対する違反の件数を結果別に記載	○	12,19,20	
	製品およびサービスのラベリング	PR3 各種手順により必要とされている製品およびサービス情報の種類とこのような情報要件の対象となる主要な製品およびサービスの割合	×	-	
		PR4 製品およびサービスの情報とラベリングに関する規制および自主規範に対する違反の件数を結果別に記載	×	-	
		PR5 顧客満足度を測る調査結果を含む、顧客満足に関する実務慣行	○	20-22,24,26,28	
	マーケティング・コミュニケーション	PR6 広告、宣伝および支援行為を含むマーケティング・コミュニケーションに関する法律、基準および自主規範の遵守のためのプログラム	○	18,65	
	PR7 広告、宣伝および支援行為を含むマーケティング・コミュニケーションに関する法律、基準および自主規範に対する違反の件数を結果別に記載	-	-		
	顧客のプライバシー	PR8 顧客のプライバシー侵害および顧客データの紛失に関する正当な根拠のあるクレームの総件数	○	13	
	遵守	PR9 製品およびサービスの提供および使用に関する法規の違反に対する相当の罰金の金額	△	12	

○…記載している △…部分的に記載している ×…記載していない -…該当事項なし

## ワタミのCSRの基盤

### ワタミヘルプライン概要



**■受付体制**  
ワタミグループ企業の  
□法令・契約違反  
□不当な要求や地位の濫用  
□店舗で使用する食材の品質にかかわること  
など、私たちが社会の信頼を失う可能性のある内容について、Eメールによる情報提供をお願いしております。

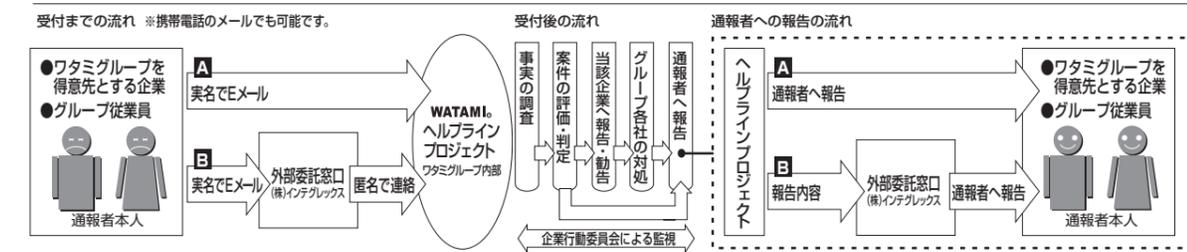
**■2つの約束**  
●守秘義務の約束  
情報提供に際しては、「情報のご提供は実名」が原則となっております。ワタミグループ内部の「ヘルプラインプロジェクト」とインテグレックス社の「ヘルプライン」は、通報者の秘密を守ります。  
●報復禁止の約束  
通報者がヘルプラインに情報を提供することでワタミグループから報復を受けることはありません。

もし思い当たることがあれば  
窓口へEメールにて  
ご連絡ください。

**■受付窓口**  
Eメールの受付窓口は2つあります。  
●グループ内窓口は、社内独立組織の「ヘルプラインプロジェクト」がメールを受付け、対応します。  
●外部委託の窓口は、(株)インテグレックスに設置されており、通報者の所属や氏名などを伏せてワタミ社内の「ヘルプラインプロジェクト」に情報が提供されます。  
※インテグレックス社は、企業の社会責任を支援する会社で、連絡者とワタミグループの間に入り中立性を維持します。法令上の義務を負う場合を除き、本人の了解なく氏名などがワタミ側に情報提供されることはありません。

ヘルプライン受付アドレス ※Eメールアドレスへは携帯電話からのメールでも可能です。  
**A**ワタミヘルプラインプロジェクト [w-helpline@watami.net](mailto:w-helpline@watami.net)  
**B**(株)インテグレックス(外部委託会社) [w-helpline@integrex.jp](mailto:w-helpline@integrex.jp)  
インテグレックスホームページ <http://www.integrex.jp>

受付までの流れ ※携帯電話のメールでも可能です。



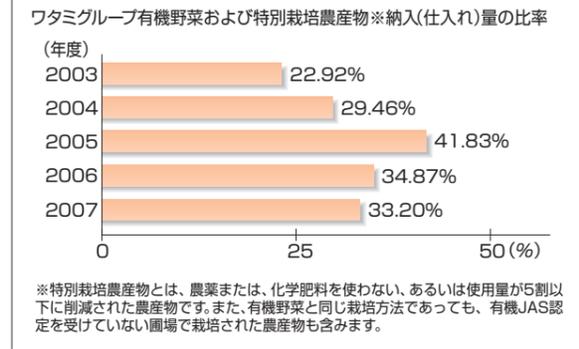
### 想定される主なリスク

リスク種類	カテゴリー	項目
経営リスク	製品・生産・物流	①衛星管理
		②食の安全性の欠如
		③不当表示・虚偽表示
		④生産停止・物流網寸断
	営業	①不正会計・現金盗難
		②未成年飲酒、飲酒運転
		③セクシャルハラスメント
		④パワーハラスメント
	知的財産権	①著作権侵害
		②商標権侵害(含受)
		③名誉毀損
	雇用	①外国人不当雇用、差別
		②勤怠虚偽計上
		③残業代不払い
		④役員・従業員の不祥事
	法務	①会社法、金融商品取引法
		②食品衛生法
		③風俗営業法
		④消防法
		⑤介護保険法
		⑥景品表示法
	財務	①敵対的M&A
		②不良債権
		③貸倒れ
④減損処理		
情報管理	①企業情報漏洩	
	②個人情報漏洩	
	③通信障害	
	④システム障害	
	⑤蓄積データの消失	
	⑥	

リスク種類	カテゴリー	項目
政治・経済・社会	環境	①環境汚染
		②
	政治	①法律改正
		②制度改正
	経済	③税制改正
		①景気変動
		②為替・金利変動
		③原料・資材の高騰
	社会	①戦争
		②テロ
③インターネットでの批判・中傷		
④マスコミでの批判・中傷・風評		
災害・事故	自然災害	①地震
		②異常気象
		③風災
	事故	①火災
		②交通事故
		③海外での感染症被害

## お客さまとともに(安全・安心への取り組み)

### 有機野菜および特別栽培農産物納入量の比率



### 有機加工食品および有機農産物を使用した加工食品一覧

有機こや豆腐	有機カットコンニャク	有機小倉水ようかん
有機醤油	有機薄切りコンニャク	有機抹茶水ようかん
有機納豆	有機手綱コンニャク	有機韃靼そば
有機納豆揚げ	有機さといもペースト	有機トマトジュース
国産有機オカラ	有機じゃがいもフライ	有機吟醸甘酒
有機だいず水煮	有機レモン果汁	有機さつまいもを使用した焼酎
有機玉コンニャク	有機切り干し大根	有機米を使用した日本酒
有機生いもコンニャク	有機粉末緑茶	
有機突き出しコンニャク	有機こし水ようかん	

### 原産地表示について

ワタミグループでは2006年1月より、料理の主な食材(ソースや調味料除く)について原産地を明確にする取り組みを開始しました。食材の原産地は、同じメニューであっても季節により異なります。そのため外食店舗においては「和民」「坐・和民」「和み亭」「ゴハン」「然の家」「わたみん家」「T.G.I.F」の各店舗にてメニューブックには表記していませんが、常に更新された原産地一覧表を店舗ごとに保管しており、お客さまからお問い合わせがあった際には回答できる体制を整備しています。また老人ホームでも使用されている食材の原産地が記載された一覧図がホーム内で掲示されています。

### 商標権に対する留意

メニューブックに表記する商品名については「商標権」などにも留意し、他社の権利を侵害することのないようチェックを徹底しています。特にオリジナル性の強い商品名については、第三者の権利を侵害していないことを調査し、決定しています。また、「著作権に関する基礎知識」および「商標に関する基礎知識」などガイドラインを発行し、イントラネットにより公開しています。

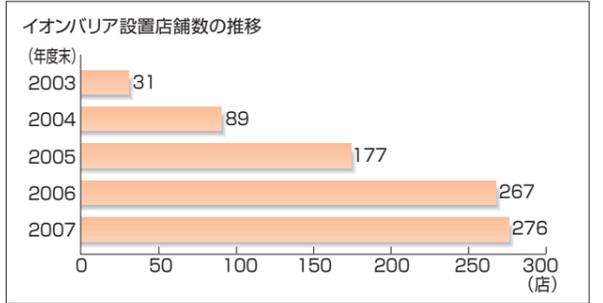
### アレルギー表示について

ワタミグループでは、特定原材料(※)の使用の有無については外食店舗において、「和民」「坐・和民」「和み亭」「ゴハン」「然の家」「わたみん家」「T.G.I.F」の各店舗にてメニューブックには表記していませんが、最新の情報が記載された一覧表を店舗ごとに保管しています。※特定原材料…アレルギー発生頻度が高く、その症状が重篤であるとされる「小麦・乳・卵・そば・落花生」の5品目。

### 車イス対応トイレが設置されている店舗一覧

- (2008年8月現在)
- 「和民」:  
中目黒店・武蔵中原駅前店※・南海難波駅前店※・千日前店※・光が丘IMA公園通店※・千葉都賀店・足立谷中店・青梅店・東村山店
  - 「坐・和民」:  
紙屋町店・京阪橋片町口店・伏見桃山店・博多都ホテル店・長崎銅座店※・立川南口店・広島駅南口店※
  - 居食屋「和み亭」:  
大宮日進店・鹿島田店・新江古田駅前店・大鳥居店・西船橋店・和光店・武蔵境店・福生店・府中若松店・海老名中央店・天王町店
  - 「わたみん家」:  
広島駅南口店※・菊川駅前店
  - 「T.G.I. Friday's」:  
品川パシフィック店※・MM21クロスゲート店※  
※はテナント出店のため、共同トイレに設置

### イオンバリア設置店舗数の推移

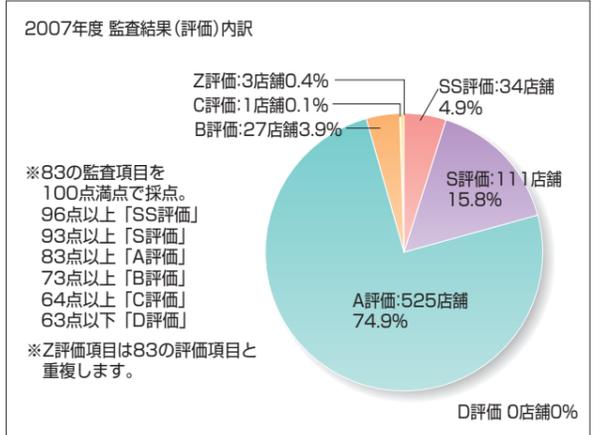


## お客さまとともに(外食事業)

### 外食店舗運営基準

- 1、商品が美味しいこと
- 2、商品がタイミングよく提供されること
- 3、商品が均一化されていること
- 4、メンバーが親切なこと
- 5、メンバーに笑顔があふれていること
- 6、メンバーに活気があること
- 7、メンバーが礼儀正しいこと
- 8、店舗は清潔であること
- 9、明細会計であること
- 10、QSCのバランスにおいて価格が安いこと

### 2007年度 監査結果(評価)内訳



## お客さまとともに(介護事業)

### ワタミの介護ホームの運営基準

- (前文)「ワタミのホームに親を入居させたいと思う子は親孝行だ」と言われるホームにする
- 一、すべての方、すべての食事が美味しいこと
  - 一、食事と運動と環境により、ご入居者様が、日に日に元気になっていられるホームであること
  - 一、同好会や趣味活動、外出などを積極的に支援し、ご入居者様に楽しい時間を提供していること
  - 一、風呂・マッサージ・美容などにより、心地良い時間を提供していること
  - 一、ホームは清潔であり、ご入居者様にとって「安らぎの空間」であり、それぞれの居室は「くつろぎの空間」であること
  - 一、スタッフが、すべてのご入居者様に対して強い関心を持ち、感謝と尊敬をこめてお世話をさせていただいていること
  - 一、スタッフが、親切であり、元気があり、礼儀正しく笑顔で働いていること
  - 一、介護予防・リハビリテーションの充実により、一日でも長く元気な生活をしていただけるように努力していること
  - 一、おむつ-0、特殊浴-0、経管食-0、車椅子-0を目標に努力を続けていること
  - 一、医療との緊密な連携により、ご入居者様にとって安心なホームであること
  - 一、提供するすべてのサービスが価格に対して圧倒的価値を表現しているホームであること
  - 一、「ワタミのホームに入ってよかった、ありがとう」と、すべての方から言っていただけるホームであること



### 暮らし全般の品質保証 「ワタミの介護」マークについて

このマークは、ワタミの介護事業が、「ワタミの介護」という介護理念の下に運営され、ホーム(サービス)が、ご入居者様(ご利用者様)の幸せのためだけにあることを宣言し、ワタミの介護株式会社がご提供する暮らし、サービス全般の品質を自ら保証するものです。

私たちは、ご入居者様(ご利用者様)が主役の介護モデル「ワタミの介護」の実践に、持てる力と知識、心のすべてを尽くし、高齢者の方の笑顔、自らの喜びとし、明るくのびのびと礼儀正しく笑顔で働くことを誓います。自分の両親にして欲しいと思うことをすべてさせていただこう。自分の両親にして欲しいと思わないことは、絶対にするのはいやめよう。これが私たちの合い言葉です。

### ワタミカフェ・ワタミコーナー・ワタミ農園

■ワタミカフェ：ご入居者様にとって「小さなお出かけの場」として利用していただくため、またご家族様がいらっしゃった際に気軽にラウンジとしてご利用いただけるよう「ワタミカフェ」を各ホームに設置しました。ワタミカフェでは有機のコーヒー豆から焙煎した有機コーヒーなどを提供しています。

■ワタミコーナー：ご入居者様・ご家族様に、私たちの介護への思いをご理解いただくために、各ホームに「ワタミコーナー」を設置しています。ご意見をいただくために投函ポストを設け、いただいたお便りの一つひとつに返信しています。

■ワタミ農園：ご入居者様に、日に一度は外に出て、陽の光を浴び、風のそよぎ、鳥の声を楽しんでいただきたいとの思いから、「ワタミ農園」を開設しました。ご入居者様が、花々で彩られた庭園によって季節の移り変わりを楽しむことや、土づくりからこだわったハーブや野菜を栽培することが、「日に日に元気に」につながると考えています。一部のホームでは車イスなど不自由な方にも、農園の手入れや収穫を楽しんでいただけるようプランターを手の届く位置に配置、車イスのままでも通れる導線を確保するなど工夫を凝らしています。



ワタミカフェ



ワタミ農園

## お客さまとともに(農業)

### 農場面積の推移

	畑作 (ha)	酪農 (ha)	畜産 (ha)	計 (ha)
2003年	4.0	0	0	4.0
2004年	14.0	0	0	14.0
2005年	195.5	50.0	0	245.5
2006年	198.5	50.0	240.0	488.5
2007年	186.0	50.0	240.0	476.0

### ワタミグループの農場で栽培している野菜

果菜類	ナス、水ナス、ミニトマト、ゴーヤ、インゲン
葉菜類	ホウレンソウ、白菜、キャベツ、玉レタス、サニーレタス、ロメインレタス、フリルレタス、プロッコリー、水菜、空芯菜、ペピーリーフ
根菜類	大根、カブ、ジャガイモ、さつまいも

## 環境とともに

### 店舗電気使用量の推移

	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度
総使用量(万kWh)	8,902	10,760	13,483	14,803	14,462
1店舗あたり平均使用量(万kWh/店)	25.3	26.5	27.4	25.0	23.9

### 店舗廃棄物リサイクル率の推移

	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度
全廃棄物リサイクル率(%)	39.3	41.2	37.3	30.6	33.9
食品廃棄物リサイクル率(%)	8.3	30.1	30.4	21.7	24.4

### 店舗都市ガス使用量の推移

	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度
総使用量(千m³)	3,818	4,247	5,193	6,605	6,655
1店舗あたり平均使用量(千m³/店)	10.8	10.4	10.5	11.1	11.0

### 店舗水使用量の推移

	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度
総使用量(千m³)	1,672	1,893	2,172	2,472	2,560
1店舗あたり平均使用量(千m³/店)	4.7	4.6	4.4	4.1	4.2

※「電気・水・都市ガス」の使用量算出については、店舗ごとの使用金額を、「地域ごとの単価(電気:1kWhあたり、水:1m³あたり、都市ガス:1m³あたり)」で割り、使用量を算出、全店舗分を加算する方法としています。なお、「地域ごとの単価」については、2008年1月～3月の期間で、都道府県ごとに1店舗を抽出し、その店舗の単価を適用しています。

## 2007年度ふれあい報告書 アンケート結果

(当社社員を除くデータより集計)

ワタミ「2007年度ふれあい報告書」(2007年9月発行)アンケートに多数お答えいただき、誠にありがとうございました。皆様からお寄せいただきました貴重なご意見・ご感想は、本報告書の制作に役立たせていただきました。

### Q1 どのような立場でこの報告書をご覧になっていますか? (人)



### Q2 報告書についての満足度 (人)



### Q4 ワタミグループの社会活動全般について、評価するとしたら以下のどれに該当しますか? (人)



### Q3 興味のある項目(複数選択可)(件)

「ふれあい報告書2007」発行にあたり	1	お取引業者様との共存共栄を目指して	2
ワタミグループの概要	6	従業員とともに(扉)	5
トップメッセージ	8	夢を追いかけるグループであるために	5
ワタミグループに共通する経営の考え方	5	グループ企業の教育・研修	5
ワタミのCSRの考え方	10	安全で、安心して働ける職場を目指して	9
コーポレートガバナンスの強化	4	地域・社会とともに(扉)	5
コンプライアンス活動の推進	5	社会貢献活動	11
リスクの発生予防とリスク発生時の体制づくり	5	特集 スクール・エイド・ジャパン	11
お客さまとともに(扉)	3	環境とともに(扉)	4
安全・安心の追求	10	ワタミグループの環境への取り組み	7
外食事業	10	グループ全体の環境影響の把握	7
特集 世界に広がる「ありがとう」の輪～ワタミの外食(海外)	3	店舗における主な環境影響	6
介護事業	9	店舗での取り組み	8
特集 ワタミ手づくり厨房 ワタミの「こだわりの手づくりシステム」	7	環境コミュニケーション(社内・社外)	4
農業	8	ワタミグループの環境会計	1
環境事業・教育事業	5	特集 特定非営利活動法人「Return to Forest Life」について	3
株主様とともに(扉)	2	CSR年表	1
株主様の満足を目指して	1	2006年度アンケート結果	1
開かれた総会を目指して	4	2007年度アンケート	1
お取引業者様とともに(扉)	1	第三者所感・編集後記	1
		GRI対照表	0

ご意見・ご感想をお聞かせください。ふれあい報告書2008をご覧いただきありがとうございました。よりよい報告書をつくっていくために、皆様のご意見、ご感想をお聞かせください。ハガキまたは、ホームページのアンケートフォームでお送りください。

巻末のアンケートハガキをご利用ください。  
ホームページアドレス <http://www.watami.co.jp>

### バックナンバー

すべての「ふれあい報告書」は、ワタミふれあいホームページ <http://www.watami.co.jp> からPDF形式でダウンロードできます。



### 編集後記

「ワタミふれあい報告書2008」をお読みいただき、ありがとうございました。

皆様よりいただきました昨年度のアンケートを参考にさせていただき、皆様に関心ある内容の充実や、内容をより分かりやすくするため写真やグラフなどを積極的に取り入れ、より伝わりやすい報告書になるように努めました。

報告書は年度の活動を社内外にお伝えするためのものではありませんが、その一方で制作過程において、ステークホルダーの皆様から期待される取り組みや自社の課題をより明確にする機能も果たして

います。これをひとつのきっかけとして、ステークホルダーの皆様との積極的な対話を進めながら、取り組みそのものをレベルアップさせる活動につなげていきます。

なお、読者の皆様から2007年度ふれあい報告書に対する様々なご意見をいただきましたことを、この場を借りてお礼申し上げます。これからも、皆様からのご意見を参考にさせていただき、グループ全体の取り組みを分かりやすくお伝えすることを念頭に置き、報告書を発行していきます。

# WATAMI®

## 表紙のデザインについて

会社の価値はありがとうの総和であるとの考えに基づき、「お客さま」「株主様」「お取引業者様」「従業員」「地域・社会」「環境」というステークホルダーから「ありがとう」という言葉をいただくことを目指しています。そして、この「ありがとう」をいただく活動を通じて持続可能な社会を目指します。そんな私たちの思いを、各ステークホルダーに関連する写真を使いデザインしました。

### ワタミ株式会社

東京都大田区羽田一丁目1番3号 (〒144-0043)  
お問合せ先TEL (03)5737-2784 FAX (03)5737-2793  
ワタミふれあいホームページ <http://www.watami.co.jp>

※本報告書掲載のワタミグループ各社および関連団体のホームページには、「ワタミふれあいホームページ」からアクセスできます。



本報告書は、用紙はFSC認証林および管理された森林から製品化されたFSCミックス認証紙を用い、インキには有害なVOC（揮発性有機化合物）を排除しほぼ100%植物油を材料としたベジタブルインキを使用、印刷方式には強いアルカリ現像液を使用しない水なし印刷を採用しています。製本用接着剤は古紙再生時に分離除去が容易なポリウレタン系の接着剤を使用しました。また本報告書はISO14001認証取得工場で印刷しています。